

令和元年度 林野公共事業事業評価技術検討会 議事概要

- 1 開催日時 令和元年7月22日(月) 14:50~16:00
- 2 開催場所 北海道森林管理局2階 第2会議室
- 3 出席者 委員：丸谷委員長、樽見委員、庄子委員
局担当者：総務企画部長
治山課長、国有林治山係長
業務調整課長、業務調整課課長補佐
- 4 議事
治山事業(完了後の評価1件)について
- 5 議事概要
(治山課国有林治山係長より治山事業に係る完了後の評価について説明)

(委員)

本事業に係る各種計画の策定者等について説明願いたい。

(局)

「砂防基本計画」を策定した開発局と連携し、国有林が「十勝岳治山事業全体計画」を策定したものです。

(委員)

削剥防止工の盛土、緑化の目的は何か。

(局)

主に景観に配慮したものです。

(委員)

上空からの写真について、ドローン導入以前はどのように撮影したのか。

(局)

ラジコンヘリで撮影していました。

(委員)

参考(P13)の山地災害防止便益の効果額について、観光収入等経済効果は入っているのか。

(局)

入っていません。

(委員)

森林整備事業には観光収入等経済効果的なものは入っているか。

(局)

どこまでを森林整備事業の効果として見込むのかは判断が難しいところです。

(委員)

総費用（C）の約49億円は治山事業としては全国的に見て大きい方か。

(局)

比較的大きい方と思われます。

(委員)

大正15年の噴火規模を想定しての対策か。

(局)

白金温泉を保全対象としているが、国有林で土砂を止めることにより、下流の被害が軽減されると考えています。

(委員)

上流（国有林）と下流（開発局）で評価の差があった場合はどうするのか。

(委員)

北海道の場合、上流と下流で土砂抑止量のバランスがとれており、うまく連携されている。

(委員)

直接の保全対象の保全だけでなく、下流の居住地域を含め広域的に見ても有効な事業である。

(委員)

評価結果の「有効性」について、「下流域の保全が図られる」だけでなく、下流域の町への効果も記載した方がよいのではないか。

(局)

修正します。

以上